

原因不明の膝の痛みに悩んでいます



心当たりのない膝の痛み。膝の病気には、主に関節軟骨の老化が原因で起こるものもあり、磁気共鳴画像装置（MRI）検査を使えば、より早く診断、治療に進むことができる。四国こどもとおとなの医療センター診療放射線科の福田有子院長に診断方法やMRIの良さを聞いた。

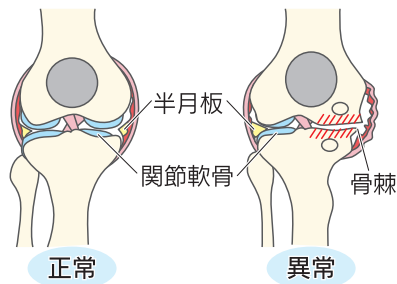
膝が痛むのはなぜ？

筋や靭帯の慢性的な変性、過度の負荷、スポーツのやり過ぎなどが原因で、まなことが考えられる。中でも、中高年以降で原因不明の場合に多いのが、変形性膝関節症。

変形性膝関節症の可能性も

変形性膝関節症とは、加齢などに伴い関節軟

加齢などに伴い関節軟



骨切り術などの手術に進む場合もある。当院では、同手術を年間35件行っている。

MRIの必要性は

単純X線写真やCT検査では分からない軟骨や骨髄、靭帯、半月板、筋肉の状態が見えるため、

骨がすり減り、関節が変形してゆがむことで膝の痛みが出る病気。O脚になると体重の負荷が内側にばかりかかり、内側の軟骨や半月板が薄くなってしまったため、「O脚が多い」「閉経後に太りや

るため、まずは整形外科を受診し、▽膝に関節液がたまっているか▽感染の有無▽骨の異常▽骨粗しょう症による骨折の有無—を見て痛みの原因を探る。その後、単純X線検査で骨棘と呼ばれるとげの有無を確認し、変形性膝関節症の疑いがある、もしくは原因が分からないければ、CT検査、MRI検査で判断する。

予防のためには

「O脚が治したり、大腿四頭筋のストレッチをしたりして、バランスよく膝に加重がかかるようにしよう。イスに腰掛けて片足を水平に伸ばし、5〜10秒保つなど簡単なもので良い。症状を悪化させる肥満を防ぐダイエットも重要。膝の痛みが出たら、まずは体重の5%、

疑わしい時は

変形性膝関節症以外で膝の痛みが出る場合もある。

MRI検査で細部まで確認

今日のドクターは…

福田 有子 先生

四国こどもとおとなの医療センター



ふくだ・ゆこ 1995年香川医科大学（現香川大医学部）卒。同大放射線医学講座講師を経て、2020年4月から現職。日本医学放射線学会専門医、ドイツ医師免許、PET核医学認定医。医学博士。



体の悩みや女性特有の病気に関する疑問や質問をお寄せください。

ファクス <087(833)2281>
メール bunka@shikoku-np.co.jp

あて先は、四国新聞社生活文化部「健康ラボ」係まで。

(次回は15日付)